

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-10	高等学校	保健体育	保健体育	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
183・第一	保体・306	高等学校 改訂版 保健体育		

1. 編修の趣旨及び留意点

心と体を一体としてとらえて、健康・安全・運動についての理解を深めることができるようにし、運動の計画的な実践方法を学ぶことで、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てることをねらいとした。また、日常生活を送る中で、自身や家族などの健康上の問題点に気付く、その問題点を改善して健康の保持・増進をはかるための実践力の育成と体力の向上、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につけることができるよう留意した。

2. 編修の基本方針

- ①各項の冒頭に「学習のねらい」を端的に示すとともに、1つの学習項目を見開き構成でまとめ、学習の要点を把握しやすくすることで、個人が自主的にその能力を伸ばすことができるよう配慮した。
- ②基礎・基本となる学習内容を重視し、記述内容を精選する。また、生徒にとって学習内容が理解しやすくなるよう、できるだけ平易な記述とし、図版や写真による視覚的な補足をした。
- ③「ケーススタディ」を設け、本文内容の理解を一層深めるとともに、健康生活や生涯スポーツの実践力を高められるようにした。また、さまざまな話し合いの手法を紹介し、実践できるように配慮した。
- ④随所に「ピクチャースタディ」を設け、本文内容の理解を深めたり、学習への興味・関心を高めたりするような内容を扱うことにより、幅広い教養を身につけることができるよう配慮した。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1章 現代社会と健康	・健やかな身体を養ううえで必要な、生活習慣や感染症などの幅広い知識と教養を身につけ、多角的な考察ができるよう配慮した(第1号)。 ・安全な社会の形成のために、公共の精神に基づいて主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう工夫した(第3号)。 ・健康の保持・増進のための重要な要素となる自然環境について取り上げ、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるよう留意した(第4号)。	p. 14～33 p. 50～51 p. 10～11
第2章 生涯を通じての健康	・思春期の心と体の成長を通して、男女の違いについて幅広い知識と教養を身につけるとともに、お互いについて思いやる豊かな情操と道徳心を培えるよう配慮した(第1号)。 ・豊富な人生経験と知識によって社会を支える高齢者の存在を通して、生涯を通じて個人の能力を伸ばし、創造性を培い、自主自立の精神を養うとともに、勤労を重んずる態度を養えるよう工夫した(第2号)。 ・わが国の保健・医療制度について、その仕組みと精神などに触れ、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画するような態度を養えるよう配慮した(第3号)。 ・妊娠から出産の過程を知り、生命を尊ぶ態度を養えるよう	p. 62～65 p. 72～73 p. 76～77 p. 68～69

	留意した（第4号）。 ・世界で行われている保健活動の学習を通じて、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう留意した（第5号）	p. 83～85
第3章 社会生活と健康	・環境汚染と健康被害の関係についての学習を通して、環境についての幅広い知識と教養を身につけ、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うとともに、健やかな身体を養えるよう工夫した（第1号・第4号）。 ・労働は豊かな社会づくりの基礎になるだけでなく、個人にとっても自己実現をはかることができることを取り上げ、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるよう留意した（第2号）。 ・消費者として、食の安全性に関して私たちに求められる役割について取り上げ、主体的に社会の形成に参画するような態度を養えるよう配慮した（第3号）。	p. 86～105 p. 106～107 p. 104～105
第4章 スポーツの歴史	・世界やわが国におけるスポーツの歴史や文化に対する幅広い知識と教養を身につけるとともに、国際社会の平和と発展に寄与しようとするオリンピックムーブメントなどを学ぶことで、多角的な考察ができるよう配慮した（第1号・第5号）。 ・オリンピックムーブメントを取り上げ、自他の敬愛と協力を重んずる精神を養えるよう留意した（第3号）。	p. 128～129 p. 132～133 p. 132～133
第5章 運動やスポーツの学習方法	・自分の体力の把握方法や体力の高め方を取り上げ、健やかな身体を養えるように留意した（第1号）。 ・運動技能の学び方について、自分に合った方法を考える場面を設け、個人の価値を尊重して、その能力をのばし、自主及び自立の精神を養うことができるよう配慮した（第2号）。	p. 148～149 p. 144～145
第6章 豊かなスポーツライフのために	・健やかな身体を養うためにスポーツの楽しみ方を取り上げ、生涯にわたるスポーツへの取り組みの重要性が実感できるよう配慮した（第1号）。 ・スポーツでの PDCA サイクルを取り上げ、個人の能力を伸ばし、自主及び自立の精神を養えるように留意した（第2号）。 ・総合型地域スポーツクラブやスポーツボランティアなどを取り上げ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第3号）。 ・将来にわたってスポーツを楽しむために現在行われている対策などを学ぶことを通して、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるよう工夫した（第4号）。	p. 156～157 p. 160～161 p. 164～165 p. 166～167

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・学校教育法第51条1号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」、また、第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」等の規定を踏まえ、私たちの暮らす社会や生活は、さまざまな法律によって成り立っていることが実感できるよう、随所にさまざまな法律を取り上げた。
- ・読みにくい漢字には積極的にルビを添え、一般的な教養も身に付くよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-10	高等学校	保健体育	保健体育	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
183・第一	保体・306	高等学校 改訂版 保健体育		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1. 基礎的・基本的な事項を重視し、ビジュアルな紙面で保健体育に対する興味・関心を喚起できるようにした。
 - ・見開き（左頁と右頁）完結の紙面構成を基本とし、授業展開のまとまりをつけた。
 - ・基本的な学習内容を重視し、平易でわかりやすく記述した。また、重要な学習内容や事項については、横注や用語解説で丁寧に解説した。
 - ・随所に「ピクチャースタディ」を設けて鮮明な写真を豊富に掲載したり、大判の紙面を生かしてイラストや写真を大きく取り上げたりしてダイナミックでビジュアルな紙面を構築し、視覚に訴えて保健体育に対する興味関心を喚起できるようにした。
2. 実生活の中での健康や運動について意識できるよう、身近な題材を豊富に取り上げた。
 - ・随所に「コラム」（保健編は「生活最前線」、体育編は「スポーツ最前線」）を取り入れて、興味・関心づけをはかるようにした。
 - ・本文の下段に「考えてみようー健康のふしぎ」（保健分野）、「考えてみようースポーツのふしぎ」（体育分野）を設け、簡単な設問で、健康やスポーツの身近な話題について問題意識を喚起するようにした。
3. 課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむことができるよう配慮した。
 - ・各項において、健康課題を解決するための意志決定や行動選択のあり方について、考えながら学ぶことができるよう配慮した。
 - ・「ケーススタディ」を設け、学習内容を深め、積極的に自らの健康増進をはかるための態度を養うことができるようにした。なお、「ケーススタディ」では、ロールプレイングやディベート、ブレインストーミング、パネルディスカッションなどの学習形態を取り入れた。
4. 学習事項の全体像を把握してから各論を学習できるような構成を心がけた。
 - ・学習内容が多岐に渡る分野が多いため、節などの単位で、できる限り全体像を把握してから各論を学習できるような、構成・記述を心がけた。
5. 心身の健康の保持・増進をはかるために必要な、知識と技能を習得できるようにした。
 - ・個人の健康を害するさまざまなリスクや、心身の健康の保持・増進をはかるための対策と並んで、社会全体での、保健・医療制度の充実や自然環境の保護に向けた対策などの取り組みが重要であることを教科書全体にわたって取り上げた。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
1 章 1 節 健康の考え方	保健 (1)ーア	p. 6～11	4
ケーススタディ 健康のための意志決定と行動選択	保健 (1)ーイ	p. 12～13	2
1 章 2 節 健康の増進と病気の予防	保健 (1)ーイ	p. 14～33	16
1 章 3 節 精神の健康	保健 (1)ーウ	p. 36～45	6
1 章 4 節 交通安全	保健 (1)ーエ	p. 46～51	4

1章5節 応急手当	保健 (1)ーオ	p. 52～57	4
2章1節 生涯の各段階における健康	保健 (2)ーア	p. 60～75	10
2章2節 保健・医療の制度と機関	保健 (2)ーイ, ウ	p. 76～83	5
3章1節 環境と健康	保健 (3)ーア	p. 86～97	8
3章2節 環境と食品の健康	保健 (3)ーイ	p. 100～105	4
3章3節 労働と健康	保健 (3)ーウ	p. 106～113	5
ケーススタディ 自由時間の活用方法を考えてみよう	保健 (3)ーウ	p. 114～115	2
4章1節 スポーツの歴史と文化	体育 体育理論 1ーア, イ	p. 128～131	2
4章2節 スポーツと現代社会	体育 体育理論 1ーウ, エ	p. 132～137	3
5章1節 運動のしくみ	体育 体育理論 2ーア, イ	p. 138～145	3
5章2節 運動と体力の高め方	体育 体育理論 2ーウ, エ	p. 146～151	4
6章1節 生活のなかのスポーツ	体育 体育理論 3ーア, イ	p. 156～161	3
ケーススタディ スポーツライフを設計してみよう	体育 体育理論 3ーア, イ	p. 162～163	1
6章2節 スポーツ振興と自然環境	体育 体育理論 3ーウ, エ	p. 164～167	2
		計	88

(注1) 「保健」の配当授業時数は、年間授業時数を35単位時間として計算し、入学年次およびその次の年次の2年間にわたり履修することを想定した。

(注2) 「体育理論」の配当授業時数は、年間授業時数を6単位時間として計算し、3年間にわたり履修することを想定した。